

小中学校のあり方意見交換会 意見・アンケート結果
(地域住民向け・出石会場)

- 開催日 2020年10月28日(水) 19:00~20:20
- 会場 出石多目的ホール
- 出席者 地域住民等参加者 32名
教育委員会事務局 8名
- 意見交換(関連部分のみ・要旨)

意見・質問	回答
<p>《学校再編》</p> <p>学校の統廃合については、保護者や地域住民の同意が大前提だということでお話する。</p> <p>私は教育委員会の案について反対である。複式学級を解消することについては同じ意見だが、複式学級を解消する方法は、再編や統合ではなく、別の方法、例えば、すでにある法律をうまく使って、県への要望、要請をしていく、豊岡市独自の取組を進めていく方法で、複式学級の解消がある程度可能だと考える。もう一つ、言われている切磋琢磨論や社会性が育たないとか、学力がつきにくいという案も、異なる意見を持っている。</p> <p>複式の解消の方法、再編や統廃合でない方法については、学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の学級編制の基準では、「複式学級にして編制しなければならない」ではなく、「複式学級にして編制することができる」とある。これに準拠すれば、必ずしも国や県が示しているやり方に豊岡市が習うこともなく編制することができるものであり、しなくても構わない。それが、2011年に改正されて、「県教委が定めた基準に従って市町村が学級編制を」というところが、「県教委が定めた基準を標準として市町村教育委員会が実態を考慮して行</p>	<p>ご意見としてお伺いしておく。ただ、学力がつきにくいというところは、こちらは、そういった説明は一切させていただいていない。財政の話も言っていない。その点をご理解いただきたい。</p>

う」と改正されている。これも複式学級に対する考え方の根拠となると思う。同じく第5条では、それまで「あらかじめ県教委と協議してその同意を得なければならない」という箇所が、「県教委の届け出だけでよい」、つまり、県教委の指導を受けなくてもできる、というように変わっている。給与については、2006年の給与法の改正で、市町村負担教員の市町村の独自任用ができるようになっていたので、難しい事だが、これももっと、活用の方法で取り組んだらと思う。つまり、県への加配要請、市の独自任用などを進めることによって、ある程度複式学級の解消はできる方法がある。したがって、学校をなくす、統合するという方法以外にも方法があると考えている。

もう一つ、教育上の課題について、たくさん不安な点が出されている。社会性が育たないとか、多様な意見に接する機会が少ない、切磋琢磨ができない、競争心が育たない、果ては、学力が低下している、などという意見も聞くが、連日行われている複式学級では、カリキュラムの編成や授業方法、教員の配置・役割などでかなり工夫もしている。多人数のほうがいいに決まっているが、少人数でも安定した人間関係ということで、社会性、社会における主体性の基礎・基本は少人数でも育つはず。多様な活躍機会が逆に生まれて、いろいろな授業でも、児童会などの活動でも、いろいろな役割経験が育っていく。切磋琢磨論は、現代社会の大人の悪い面での強い者が勝ちということとは本来は違うはずだが、ある程度的人数でないと切磋琢磨ができないという考えは賛成できない。自立心とか自発心とかの発達には、規模の大小に左

右されるものではなく、たとえ小さな学校であっても、自立心や自発心は育てなければならないし、育つものである。学力の低下とは無関係だと思うし、むしろ可能性としては、少人数は有利な条件が揃っている。安心していいと思う。複式学級で学んでも、小規模学校を卒業しても、ほとんどの人はしゃんとしていると思う。例外はあるが。

私が言いたいのは、公共施設の集約化、財政の効率化ということや、複式学級を解消して学校を統廃合していくという一つの流れ、もう一つは、切磋琢磨論とか社会性とかが育たないという論調の流れがあるが、それは違うと思う。

ついでに、施設一体型小中一貫校や義務教育学校も反対である。9年間を見越した教育を強調する意味が分からない。元々9年間を見通した教育があるはずである。無用な制度を改革するのではなく、小規模校の相対的な短所、大きい学校と比べて相対的な短所が確かにあるが、その相対的な短所が人間形成のマイナス面と捉えている、費用対効果だけの考えで統合を進めるのではなく、小規模校の長所を活かすことを私たちは考えるべきだと思う。小規模校、複式学級であっても、児童の保護者も地域も教職員も、中身でこれまで勝負をしてきた。統廃合だけがこの問題の解決の道ではなく、小規模校でも教育条件を整備していくことに私たちは知恵を集約していくべきだと思う。

《再編の枠組み》

統廃合の話で、何年か先にまたA案、B案、C案と、4箇所くらいに区切って検討会があるみたいだが、こんなことをせず、1回だけ、出石は1箇所くらいの

保護者の方からも何回も統合するのではなくて、という意見もいただいている。参考としてお伺いさせていただく。

<p>統合を、2、3年先に全部一括でやってしまったらどうか。計画案のスケジュールでは10年先まで書いてあるが、1回やってそれで終わり。中学校が1箇所しかないのに小学校がなんで3つ4つになるのか。私は逆に1箇所にした方がいいのではないかという意見である。</p>	
<p>《学校再編》</p> <p>うちの子は中3で1年間、離島留学をした。自分でたまたま新聞記事を見て、行きたいと言って行った。人口3百何十人の島で、海が荒れると動けない、スーパーの品物も減っていくというような島だった。そこで、小中学校は始めから一緒に学校で、全校生徒18人だった。留学制度1年目だったが、本当に手厚い教育をしていただいて、うちの子はこっちでもまあまあ楽しんでいましたが、他で不登校になったお子さんもおられて、また学力的にしんどかったお子さんも含めて、すごく手厚く教育していただいて、運動会とか見に行ったが、本当に小学校1年生の子が中学生に憧れを持ちながらすごく頑張っている、本当に感動する運動会を見せてもらった。唯一、小規模で困ったと思ったことは、部活が卓球部しかなかったこと。うちの子は、運動音痴であったが、吹奏楽をやっていて、学校に話をしたら、吹奏楽を教えられ先生はいないが、ギターなら地域ので教えてくれる人がいるということで、1年だけギター部を作っていただいた。やはり、小さくてもすごくできることは感じる。ただ、ここと違うのは、離島なので、非常に手厚く、離島の手当てが出ていたために複式がされていなかったと思う。中学生数人のために専任のALTもいたし、教頭先生も含めて4人で3人を教え</p>	<p>実感からくるお話を聞かせていただいた。</p> <p>名誉のために言っておくが、その頃の中学校がどうだったか分からないが、今は本当に一生懸命やってくれている。対話的な学びをしているし、元気もいいし明るいし、本当一生懸命にやっている姿が見られる。ぜひ一度オープンスクールに行ってみて今の様子を見て欲しい。</p> <p>複式学級が解消できているのは、専科教員といって、音楽や図工など専門に教える教員をあてて、複式が解消できるという制度になったためである。定数があるので、例えば、1・2年、3・4年、5・6年と完全複式になった場合は難しく、市でその人件費を持ったらというお話もあるが、なかなか市で持つことはできない。今、県が、全ての学年で複式になった場合には、よりよい複式学級の指導ができないか、そのことを研究するために加配の教員を配置してくれている。それで複式を解消することはできないが、もっと効果的な学習ができないか検討している。そこがギリギリ、県教委の配置である。</p> <p>今おっしゃったように、小さい学校同士で学び合うような機会を持ったらどうかということは、それはその通りで、苦肉の策だが、10年前から小小連携という取組を、出石でもやっているが、年に</p>

ている時もある、本当に、すごく協力をしていただいた。ですから、そういう面もあるということ、そして、お金で複式にしなくて済むなら、そのこのところの考え方はどうなのかなと思う。たぶん、流れとしてここまま阻止ができないとしたら、せめて再編までのあと何年間かの間、複式をしなくていいように、そこは特別にお金をかけることができないのかと思う。今日、ビデオを見せてもらっても、やはりこれは集中できないだろうと思うし、先生も大変だと思う。あと、その期間だけ、今後再編されてしまうとしても、今複式のところを、別の同じような立場の小学校の3年生同士が1人の先生が両方教えるとか、そういうこともしながら、少しでも、後ろで違う授業をやっているような環境で勉強しなくてもいい方法を考えていただけないかと思う。

もう一つは、豊岡市でもいろいろ移住してきたいという人を迎えたいということを考えておられると思うが、山村留学的なことを検討されたことがあるのか。そういうこともお考えいただいたらと思う。

ただ、辛口に言わせていただくと、うちの子は、小学校は大好きだったが、中学校は嫌いだった。管理的な部分がすごく多く、全員一律という部分がとても嫌だった。今のままの中学校だったら、人を引っ張ってくる魅力は少ないかなと思う。

数回である。例えば、一緒に、少人数であればできないような学習をすとか球技をすとか、今やっているコミュニケーション教育も人数が少ないとなかなかできないし、英語も数人ではなかなかコミュニケーション能力もつかないので、そのようなことを、小小連携という取組で進めている。ただ、現場の声としては、やはり限界があり、子どもが移動する時間の問題、学校によって授業の進度を合わせないといけないといけないので、その調整が難しい、そういった問題がある中で、できる限りのことをやっている。しかし、それは日常的にすることができないので、適正規模・適正配置の考え方をまとめざるを得ないのかなと思う。いろいろな工夫の基にやっている。今ある人材で、今いる子どもたちに向かって、本当に一生懸命やっているから持っている。そういうことではなく、普通に、通常に、小規模校ではできないことを、人数がある程度集まると可能になってくるということで、私たちは、今考えられる案としてお示ししている。そのこのところはぜひともご理解いただきたい。本当に一生懸命、小規模でも頑張ってくれているし、複式でも本当にやりにくい中で、様々な工夫をしてくれているということ、小規模の良さはもちろん分かっている、それでも、これから求められるものは、今学力が低くないから大丈夫じゃないかということではなく、多様性、切磋琢磨が求められている。これから、ますます進む多様性の中に子どもたちは置かれるので、今からいろんな考え方に、あるいはいろんな考え方ですり合わせをする経験をさせてあげたいという、そういう教育的な観点からこ

	<p>のような提案をさせていただいている。</p>
<p>《学校再編》</p> <p>寺坂小学校の人数が少なくなってきて、統廃合の話が出てくるのも分かるが、統合先として、なぜ弘道小学校が出てくるのかが分からない。寺坂小学校の校区から通うとすれば、福住小学校が位置的に一番通いやすいと思う。そのあたりは、どういうことで弘道小学校が統合先に設定されているのかお伺いしたい。</p>	<p>審議会でも、福住小学校とではないかとの意見であった。これまで小小連携を行っており、同じ旧村であるということもある。一方、弘道小学校については、通学距離についてはほぼ変わらないことや、統合すると20人規模が確保できるという面もある。両方の案をお示しして地域の方からご意見をいただきたいと考えている。審議会でも、2つの案を示すことでかえって混乱してしまわないかという意見もあったが、地域性やコミュニティの繋がりなども含めて教えていただけたらありがたい。</p>

■アンケートでの意見（要約）

（適正規模・適正配置や再編の枠組みについて）

- 旧出石で統合を推進して欲しい。
- 地域感情は難しい。現在3校案のように見えるが、思い切って1校案で進めていく方がいいのではないかと思う。
- すべてまとめて、中学校にまとめたらどうか。
- 出石町全体の児童数は、（1学年）80名程度と聞いています。各小学校の児童数も少なく、多感な年代に友達との交流が少ないのが問題であり、人間形成の点からも統合し、一つの小学校で6年間を過ごすことは大変重要であると考えます。
- 子どもも多くの方と学ぶ方が、学びも多いと思います。

（複式学級）

- 複式学級は生徒が集中できないように思う。早く統合が必要と思う。
- 現在の状況でそれぞれが一生懸命取り組んでおられる。そのことも生かせるような取組を望みます。

（その他）

- 菅谷小が福住小に統合しました。私の子どもは菅谷小でしたが、本当に統合してよかったと今でも思っています。良いか悪いかは、子どもたちは分からないと思います。人数が多い方がいろんな選択できて良かったと思っています。
- 地域での今以上格差が出るとも考えられるので、PTA総会等でしっかりと伝える努力が必要！